

南アフリカ為替週報

2022年6月9日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去1週間の動き＞

(6月2日～6月8日)

USD/ZAR: 15.2600～15.6275
ZAR/JPY: 8.33～8.78 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、上昇。対ドル、対ユーロでは、小刻みな上下動を経て小幅上昇にとどまったが、並行した円全面安を受け、対円での上昇は一方的、かつ大幅となった。8日には直近高値(4月19日の8.73(参照値))を上抜け、18年5月来4年ぶりの高値を更新した。円安の背景には、中国(上海)のロックダウン解除(1日以降)、世界的な株価持ち直し、米5月雇用統計(非農業部門雇用者数)の上振れ(3日)などを受けた世界的な長期金利上昇と、対照的に日本の金利上昇余地が限定的という構図があった。この間、黒田総裁や若田部副総裁ら日銀首脳からは、金融引き締めや円安けん制に消極的と読める発言が繰り返されていたが、6日には、黒田総裁の「日本の家計の値上げを許容度も高まってきている」との発言が目玉され、「インフレを放置する方針」と受け止められたようだ。南ア固有の要因では、7日発表された南ア第1四半期GDPの上振れが、同日のランド押し上げに一定の寄与をしたようにも見えた。それ以上に、この間、南ア政局に関連して、①フレイザー元南ア国家安全保障局長が、マネーロンダリング、誘拐、贈賄などの容疑でラマポーザ大統領を摘発(1日)、②「国家収奪」疑惑の核心と言える旧南ア財閥の領袖であったグプタ兄弟の逮捕(6日)というふたつの大きな事件があった(後述)。政局安定、改革推進という目線で、①はランド売り材料、②はランド買い材料と読めたはずだが、ランドが材料視した様子はほとんど読み取れなかった。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
6/7	6:00	総外貨準備高(USD)	5月	59.26bn		60.28bn
	9:30	GDP(前年比)	Q1	+3.0%	+1.9%	+1.7%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

(6月9日～6月15日)

USD/ZAR: 15.000～15.400
ZAR/JPY: 8.60～8.90

向こう1週間の南ア・ランド相場は、堅調推移の継続を中心に予想。ただし、上述①、②(特に①)の展開次第で、ランドが上下に振れる可能性は警戒しておきたい。ランド堅調を中心に見るのは、この間のランド堅調の大きな部分が円安の反映だったから。円安には明確な要因(上述)が存在したものの、円安が永遠に続くはずもなく、どこかの水準で、日本政府の介入や日銀の方針転換などが起きる可能性は勿論ある。それでも、燃料価格高騰などを受け、日貿易赤字の定着が鮮明になる現状で、足元円安基調が早晩反転する可能性は低いように思われる。対円でランドが高値更新を続けるのなら、その他通貨に対してもランドが堅調を維持する可能性は低くないのではないかと。上述①は、思いのほか近年(20年2月)の事件が舞台のようだが、ラマポーザ大統領の保有する家禽飼育/販売会社が強盗被害にあったのは事実と思われる。問題は、この事件が「明るみに出した」とされるマネロン、誘拐、贈賄などの容疑だが、現時点で詳細は不明。ただ、フレイザー元局長は、ズマ前大統領の側近と言える人物で、今般の摘発も、与党アフリカ民族会議(ANC)内の権力闘争(注)の一環なのは間違いない。7日、一部で観測されたように、実際にラマポーザ大統領に対する捜査が始まれば、同大統領は、自ら推進した「(疑わしき)身を引くルール(step aside rule)」に基づき、ANC党首/南ア大統領の座から一旦身を引く必要に迫られる。②は、逆に、ズマ前大統領一派が国家を「食食物」にしたという疑惑の核心に切り込む出来事で、有権者の目を①から逸らすという効果にとどまらず、前大統領一派の「悪事」の全容を明らかにし、党内主導権争いの形勢を一気にラマポーザ大統領有利に変える可能性もあろう。

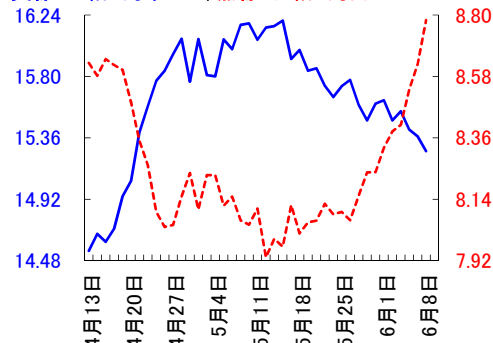
＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
6/9	9:00	経常収支(ZAR)	Q1		+94bn	+120bn
	9:30	鉱業生産(前年比)	4月			-9.3%
	11:00	製造業生産(前年比)	4月		-3.5%	-0.8%
6/9-6/10		企業景況感指数	5月			95.6
6/15	11:00	小売売上高(前年比)	4月			+1.3%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

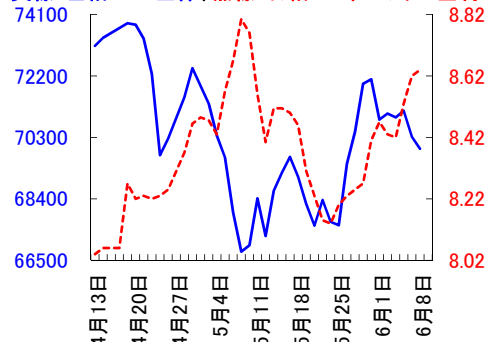
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		4.75%
長期金利(10年スワップ)	6月8日	8.64%
株価指数(JSE全株)	6月8日	69950.21
成長率(GDP/前年比)	Q1	+3.0%
経常収支(ZAR)	Q4	+120bn
失業率	Q1	34.5%
消費者物価(前年比)	4月	+5.9%
小売売上高(前年比)	3月	+1.3%
製造業生産(前年比)	3月	-0.8%
鉱業生産(前年比)	3月	-9.3%
貿易収支(ZAR)	4月	+15.5bn
金価格(ロンドン17:00)	6月8日	1858.36

(注) ラマポーザ大統領派=構造改革派とズマ元大統領派=革新的経済移行(RET)派の間の党内主導権争い

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。